

理事長あいさつ

理事長 船越 昇

会員増強に思

団塊の世代が60歳を迎える時代に入って、高齢者のだれもが能力に応じて働き、充実感を持って生活できる社会の建設が国民的課題になってきました。政府は再チャレンジ支援総合プランの中で、センターの会員数を3割増やして「2010年度に100万人」とする目標を掲げています。間もなくセンター別の目標数値が示されるでしょう。

退職後の団塊世代の受け皿としてセンターの存在が重視されていることは評価できます。しかし、一方では、財政難を理由に国や地方自治体はセンターへの補助金削減を進めています。京都府シルバー人材センター連合会は今年も京都労働局や京都府、市町に補助金を減らさないよう働きかけていきますが、状況は厳しそうです。

補助金に頼らないセンター運営がよりこれまで以上に求められています。

会員の増強に関していえば、退会者を出さない施策も重要です。全国では昨年1年間に12万人の退会者があり、会員数が初めてマイナスを記録しました。病気、就職、死亡など退会の理由はさまざまですが、65～74歳層が退会者の60%近くを占めていることは見逃せません。

幸い当センターは退会者より入会者が少し多く、会員数は増え続けていますが、「就業機会がない」と辞めていく会員も少なくありません。退会者を減らし、入会者を増やしていくには、新規就業開拓と公平な就業機会の確保、情報提供による会員の就業選択の幅拡大など、センター運営の基本に立ち返った施策が必要です。会員みなさまの理解と協力をお願いいたします。

京都府シルバー人材センター連合会 通常総会の議長を務める理事長



理事会等のうごき

平成19年度第2回理事会

(平成19年9月6日午後2時～4時)

第8号議案 正会員入会申込者の専決処
分の
承認について

同意案を専決し、承認

連合会の安全・適正就業推進研修会で精華町シルバーが事例発表

7月26日(木)京都タワーホテルで、京都府シルバー人材センター連合会主催で安全・適正就業研修会が開催され、当センター浅田清隆事務局長が京都府下各市町村のセンター安全適正就業委員対象に、安全就業に精華町シルバーがどのように取り組んでいるかを発表しました。

大きな会場が満員になるくらいの参加者の前で、スライドに沿って前半はセンター安全委員のパトロール状況を発表し、後半は「家庭内の事故を防ごう」という題目で家庭内に潜む事故についての説明を行いました。参加者は他町シルバーの事例発表だけでなく、自分の身にも及ぶことのある事事故事例について説明を受け、納得しておられるようでした。



浅田事務局長